地方公共団体向け

農泊の分野で
地域おこし協力隊制度を活用して
地域を盛り上げましょう！

令和6年4月

農林水産省

はじめに

「地域おこし協力隊」は人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域の活性化につながる活動を行いつつ、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

農林水産省で推進している、農山漁村に宿泊し、滞在中に地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」農泊の分野でも、既に多くの地方公共団体において、農泊地域協議会の活動の担い手、地域資源を活かした観光コンテンツのキーパーソンとして、地域おこし協力隊員が活躍しています。

本パンフレットでは、農泊の分野での地域おこし協力隊制度の活用がさらに進むよう、協力隊制度の概要や農泊分野での活用事例を掲載しました。

皆さんの地域でも、地域を盛り上げるために、農泊分野で地域おこし協力隊制度を御活用願います。

～ 農泊分野での地域おこし協力隊の活用イメージ～

農泊地域協議会の中心として・・・

・ 農林水産省では、地域において農泊の取組を進めるにあたって、地域全体のマーケティングやマネジメント等の地域内調整を行う中核法人が中心となり、多様な関係者が「地域協議会」に参画し、地域一丸となって継続的に取り組んでいただく体制が構築されることが大事だと考えています。

・ 地域の関係者を支え、けん引する半ば公的な役割を果たす「地域協議会」「中核法人」の業務の担い手として、地域の「外」の目線も提供できる地域おこし協力隊員の活躍が期待されます。

観光コンテンツ提供の担い手として・・・

・ 農山漁村地域では、関係者の高齢化等に起因する宿泊・食事・体験といった観光コンテンツの提供者の不足が深刻になっています。

・ 農泊の地域協議会と連携し、古民家などの地域資源を活用しつつ、農家民宿やレストラン経営をしたり、狩猟体験を観光客に提供したりしている地域おこし協力隊員や、協力隊経験者の方が多くおられます。

地域おこし協力隊とは？

都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱し、一定期間、地域に居住して、「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です。

◆ 地域協力活動の例
- 地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR
- 農林水産業への従事
- 住民の生活支援　　など

○実施主体　地方公共団体

○活動期間　概ね1年以上3年以下

○国の支援

概ね次に掲げる経費について、特別交付税による措置を講じています。

① 地域おこし協力隊員の活動に要する経費

隊員1人あたり520万円上限
（報償費等320万円、その他の経費（活動旅費、作業道具等の消耗品費、関係者間の調整などに要する事務的な経費、定住に向けた研修等の経費など）200万円）

② 地域おこし協力隊員等の起業・事業承継に要する経費

任期2年目から任期終了後1年以内に起業する者又は事業を引き継ぐ者1人あたり100万円上限

③ 地域おこし協力隊員の募集等に要する経費

1団体あたり300万円上限

④「おためし地域おこし協力隊」に要する経費

1団体あたり100万円上限

⑤「地域おこし協力隊インターン」に要する経費

1団体あたり100万円上限（プログラム作成等に要する経費）
1人・1日あたり1.2万円上限（活動に要する経費）

⑥地域おこし協力隊員の日々のサポートに要する経費

1団体あたり200万円上限（市町村に限る）

⑦ 任期終了後の隊員が定住するための空き家の改修に要する経費

措置率0.5

◆ 地域おこし協力隊導入の効果
～地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の「三方よし」の取組～

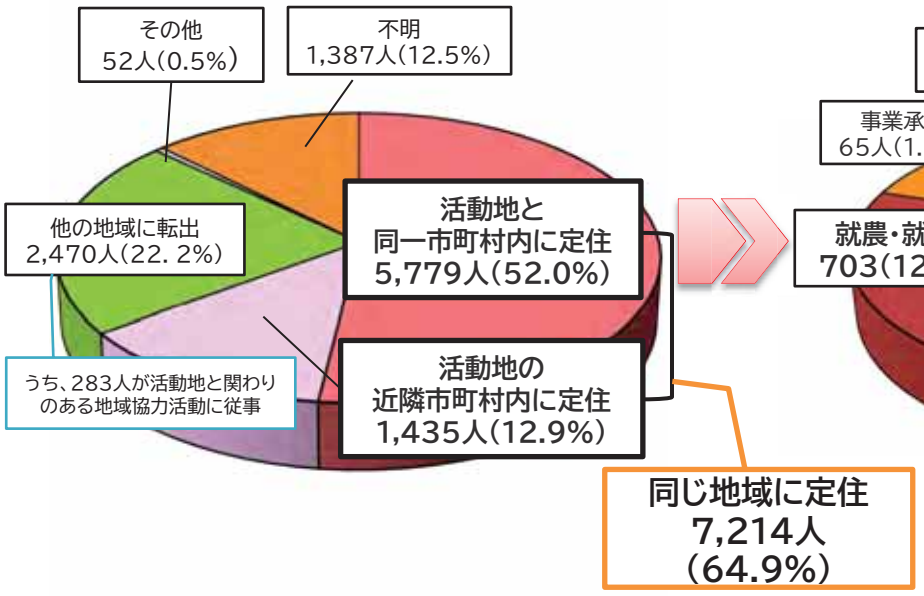
◆ 隊員数、取組自治体数の推移

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
隊員数（人）	617	978	1,629	2,799	4,090	4,976	5,530	5,503	5,560	6,015	6,447	7,200
自治体数	207	318	444	673	886	997	1,061	1,071	1,065	1,085	1,116	1,164

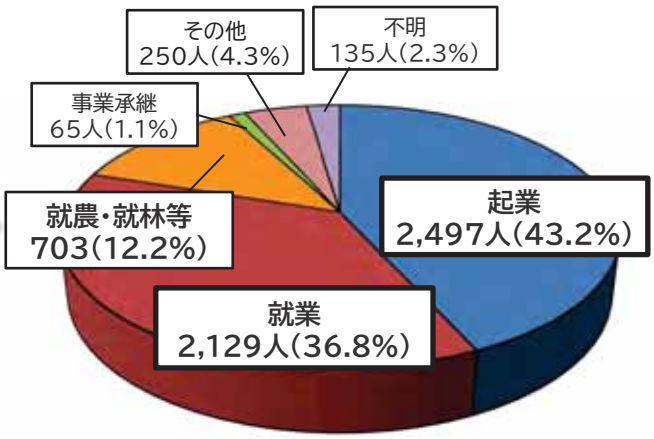
※総務省の「地域おこし協力隊推進要綱」に基づく隊員数。
※平成26年度から令和3年度の隊員数は、名称を統一した「田舎で働き隊（農林水産省）」の隊員数を含む。

◆ 任期終了後の隊員の動向

任期終了後、<u>およそ65%の隊員が同じ地域に定住</u>



同一市町村内に定住した者（5,779人）の進路



起業：飲食サービス業、宿泊業、小売業、まちづくり支援業 等
就業：行政関係（自治体職員等）
農林漁業（農業法人、森林組合等）、観光（旅行業、宿泊業等）
地域づくり・まちづくり支援関係 等
就農・就林：林業、稲作、畑作、畜産 等

※R5.3末までに任期を終えた隊員に関する調査
（総務省　令和5年度地域おこし協力隊の定住状況等調査に係る調査結果より）

参考 ： 地域での人材活用・育成を支援するその他の制度

農泊地域が抱える課題解決のために力を貸したい！

人材活用事業（研修生タイプ・専門家タイプ）

※農泊地域の求人に応募する必要があります。

農泊に取り組む地域が、地域の需要分析・戦略づくりのため、事業計画、プロジェクトマネジメント、観光コンテンツ開発、観光プロモーション、旅行商品開発、マーケティング、ICT化指導、といった専門的知識を有する専門人材を募集します。

【農山漁村振興交付金 農山漁村発イノベーション対策のうち農泊推進型の概要について】
https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/nouhakusuishin/attach/pdf/nouhaku_jigyo_gaiyo.pdf

民間企業等のスキルを地域活性化に活かして欲しい！

地域活性化起業人

地方公共団体が、三大都市圏に所在する民間企業等の社員を一定期間受け入れ、そのノウハウや知見を活かし、地域独自の魅力や価値の向上等につながる業務に従事してもらうために必要な経費について、特別交付税による措置を講じています。

・「企業派遣型地域活性化起業人」
　三大都市圏に所在する派遣元企業から受入自治体に派遣される者

・「副業型地域活性化起業人」
　三大都市圏の企業等に勤務しながら受入自治体にて副業を行う者

【地域活性化起業人（総務省ホームページ）】
https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/bunken_kaikaku/02gyosei08_03100070.html

地域づくりの実践に向けた知識を習得したい！

農村プロデューサー養成講座について

地域への愛着と共感を持ち、地域住民の思いを汲み取りながら、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートできる人材（農村プロデューサー）を養成しています。

【『農村プロデューサー』養成講座（農林水産省ホームページ）】
https://www.maff.go.jp/j/nousin/course/

農泊地域における地域おこし協力隊の活動事例

令和6年3月現在

No.	局　名	都道府県	市町村名	氏　名	現職・経験者の別	農泊事業実施主体名	主な活動	ページ
1	関東農政局	長野県	小諸市	田澤　麻里香	隊員経験者	SAKU酒蔵アグリツーリズム推進協議会	観光地域づくりコンサルタント、酒蔵ホテル®構想確立	6
2	農村振興局	北海道	赤井川村	須藤　絵利香	隊員経験者	赤井川村農泊推進協議会	オンラインストア運営、体験ガイド	7
3	農村振興局	北海道	栗山町	入倉　英茂	現　職	栗山町農泊推進協議会（栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会）	地域保全活動、体験メニュー指導	7
4	農村振興局	北海道	広尾町	磯野　巧	現　職	ピロロツーリズム推進協議会	体験型観光企画運営	8
5	農村振興局	北海道	浦幌町	小松　輝	隊員経験者	浦幌農泊観光促進協議会	ゲストハウス運営、就業促進サイト運営	8
6	東北農政局	宮城県	栗原市	狩野　夏穂	隊員経験者	栗原市農泊推進協議会	体験コンテンツ企画・開発、宿泊・飲食事業者の人材育成	9
7	東北農政局	秋田県	大館市	工藤　里美	現　職	大館市まるごと体験推進協議会	農家民宿受け入れサポート、修学旅行誘致活動	9
8	東北農政局	秋田県	仙北市	東風平　蒔人	隊員経験者	一般社団法人仙北市農山村体験推進協議会	オンライン商談対応企画、宿泊・アクティビティー従事	10
9	東北農政局	秋田県	仙北市	佐藤　成真	現　職	一般社団法人仙北市農山村体験推進協議会	多言語対応による事務サポート	10
10	東北農政局	福島県	塙町	土井　眞穂梨	現　職	塙町観光協会（はなわ農泊交流協議会）	「ダリア染め体験」制作・販売	11
11	関東農政局	茨城県	神栖市	竹中　郁人	現　職	神栖農泊協議会	観光PR動画作成、宿泊・体験プランの造成・販売	11
12	関東農政局	千葉県	香取市	顔　冬子	現　職	北総里山文化推進協議会	着物体験・茶道体験サポート、インバウンドを含めた情報発信	12
13	関東農政局	静岡県	松崎町	石川　たごさく	現　職	松崎町・獣害×外住協議会	狩猟体験ツアーガイド、ジビエ肉の商品開発・販売	12
14	北陸農政局	新潟県	長岡市	中澤　泉	現　職	山古志農泊推進協議会	地域伝統文化発信、観光資源発掘	13
15	北陸農政局	新潟県	十日町市	井比　晃	隊員経験者	水沢棚田協議会	体験コンテンツの造成やツアー企画、旅行会社の運営、古民家を活用したゲストハウスの運営	13
16	北陸農政局	富山県	氷見市	田中　紀行	現　職	氷見市宿泊体験推進協議会	観光地域プランナー、情報媒体作成・マーケティング・PR活動	14
17	北陸農政局	福井県	若狭町	阪野　真人	隊員経験者	伝統漁港による三方湖の活性化推進協議会	環境保全型体験プログラム提供、伝統漁法現場見学体験ツアー	14
18	東海農政局	岐阜県	山県市	河合　祐樹	現　職	山県市農泊推進協議会	ツアー造成アドバイザー	15
19	東海農政局	岐阜県	八百津町	武藤　貴子	隊員経験者	80%山のまちを元気にする協議会	森林空間の活用と観光資源の発掘	15
20	東海農政局	愛知県	西尾市	池部　彰	現　職	西尾南部ベイエリア協議会	地域特産物栽培、漁船体験サポート	16
21	東海農政局	三重県	紀北町	井上　幸子	現　職	紀北町海山地区渚泊推進協議会	渚泊、多言語を活かしたインバウンド対応	16
22	近畿農政局	京都府	和束町	鵜澤　由明	隊員経験者	和束町農泊推進協議会	茶業や観光等を通じた活動	17
23	近畿農政局	京都府	伊根町	増田　一樹	隊員経験者	伊根浦地区農泊推進地区協議会	体験コンテンツ造成運営	17
24	近畿農政局	奈良県	十津川村	西村　晃代	現　職	十津川村インバウンド受入協議会	山暮らし体験、古民家の再生・活用	18
25	近畿農政局	和歌山県	串本町	博多　敏希	隊員経験者	串本町古民家活用協議会	古民家を活用した宿泊や農家レストラン展開	18
26	中国四国農政局	山口県	萩市	宮崎　隆秀	隊員経験者	萩市ふるさとツーリズム推進協議会	事務局運営、各種体験コンテンツ提供、ツアー造成	19
27	中国四国農政局	香川県	高松市	村山　淳	隊員経験者	特定非営利活動法人　しおのえ	伝統野菜栽培他、事業実施主体立ち上げ、産直野菜のブランド化	19
28	九州農政局	福岡県	八女市	田中　未来	隊員経験者	母の膳推進協議会	収穫料理体験等イベント企画、マルシェ等企画運営販売	20
29	九州農政局	福岡県	宗像市	本田　藍 魚住　ゆかり	隊員経験者	宗像鯱の会	海女業に関するデータ作成、Web料理体験、水族館を活用したPR活動	20
30	九州農政局	熊本県	上天草市	星野　真理	隊員経験者	維和島振興協議会	地域食材を活用した地域内外の方々の交流の場つくり	21
31	九州農政局	熊本県	あさぎり町	石川　智一	現　職	球磨川ふるさと食・農協議会	農業を主体とした特定地域づくり事業協同組合の事務局、地域食材を活かした体験交流	22
32	九州農政局	熊本県	あさぎり町	森田　孝政	現　職	球磨川ふるさと食・農協議会	農業を主体とした特定地域づくり事業協同組合の事務局、地域食材を活かした体験交流	22

世界初の酒蔵ホテル®で、世界一の日本酒ツーリズムを目指す取組

～観光地ではない故郷を、世界中の日本酒ファンが世界で最も感動する場所へ～

SAKU酒蔵アグリツーリズム推進協議会では、世界一の日本酒ツーリズムの実現を目指し、世界初で世界唯一の酒蔵ホテル®を核にした観光地域づくりを実践しています。

中核法人である(株)KURABITO STAYは、地域おこし協力隊OGが立ち上げました。かつて酒造り職人が寝泊まりしていた職人の宿舎をリノベーションし、国内外の日本酒ファンが、蔵人さながらに寝泊まりしながら日本酒の仕込み体験ができる体験プログラムを提供しています。

令和5年からは、「自転車で酒米街道へ」をテーマにしたサイクリングプログラムも造成し、年間を通した地域の魅力発信を行っています。

長野県小諸市　元地域おこし協力隊　田澤　麻里香さん

（活動期間：平成28年度～29年度）

専業主婦からの社会復帰、できるならば、それまでのツーリズム産業で働いたキャリアを活かせる場を求めていたところ、DMOの(一社)こもろ観光局立ち上げ準備室の業務を担当する地域おこし協力隊として、故郷に約10年ぶりに帰ってくることができました。

大手旅行会社で培った経験を活かし、DMOでは主に着地型旅行商品づくりを担当しました。もっと自由に、もっとダイナミックに活動したいという想いを抑えられず、地域おこし協力隊員の活動は1年間で卒業し、その後は個人事業主で「観光地域づくりコンサルタント」として独り立ちしました。

独立後、約1年半後に出場したビジネスコンテストをきっかけに、温めてきたアイデアである「酒蔵ホテル®」を実現するために株式会社を設立、起業しました(令和元年5月)。同年、面的に観光地域づくりを促進するための農泊協議会も立ち上げました。ホテル開業4年で、インバウンド40%達成、満足度100%、23か国からのゲストを受け入れました。

協力隊の活動事例

特産品や体験を通して、村の暮らしや営みを伝える ～また帰ってきたくなる村を目指して～

北海道赤井川村では、農泊の取組を通じ、宿泊型の体験プランや旬の食材の提供、村内のリゾートエリアと農村地域をマッチングさせ、国内外のお客さんとの交流、周辺地域との連携などを取り入れ、宿泊者や交流人口の増加に取り組んでいます。

赤井川村には優れた産品と、その産品を生み出す生産者がいますが、地域としてそれらを発信できていないことが課題でした。「むらに恋する人」を増やすという関係人口の構築を目的として、「むらのもの（特産品）」「むらのこと（日常の出来事）」の発信やふるさと納税のPRのために、地域おこし協力隊員を募集しました。

北海道赤井川村　元地域おこし協力隊　須藤　絵利香さん
（活動期間：平成29年度～令和元年度）

東京生活10年目を機に田舎暮らしを決意し、移住先を探していたところ、「ふるさと伝え隊員」として地域おこし協力隊員を募集していた赤井川村に出会いました。

隊員時代には、ふるさと納税の業務で各生産者を廻り、事業者の方と話をすることでお互いの理解を深めながら、村に「ない‘もの’と‘こと’」が見えてきました。

現在は赤井川村の農産物や加工品を全国に発送するオンラインストアの運営と、旬の畑での体験のアテンドなどを行っています。農泊との関わりは、隊員卒業後の令和2年度から2か年間、赤井川村農泊推進協議会が農泊事業に取り組んだ際に、農業体験の受け入れを行いました。

私にとって赤井川村が第2のふるさとであるように、訪れた人がまた帰ってきたくなるよう、これからも、村の暮らしや営みを伝えていきたいと思っています。

ハサンベツ里山地区での保全活動と交流人口の拡大に取り組む

北海道栗山町では、人口減少や高齢化による地域活動の衰退、担い手不足等の課題を解決するため、都市圏の若者を主な対象とし、住民票を本町に異動させ、地域活性化のための様々な支援活動を行う隊員を町が任命しています。隊員は本町で1年間（最長で3年まで延長可能）生活をしながら、コミュニティ活動の支援や、地域資源の発掘・振興に関する活動、農業等の支援活動など12名（令和5年度）の隊員が活躍しています。

栗山町農泊推進対策協議会の構成員である「栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会」は、離農跡地のハサンベツ里山地区（24ha）を自然体験活動の拠点として保全活用をしてきました。令和4年度から農泊の体験交流施設（里山の恵み交流館「納屋」）が正式にオープンしたことから、隊員を受け入れ里山保全等の活動を本格化しています。

北海道栗山町　地域おこし協力隊　入倉　英茂さん（活動期間：令和5年度～）

東京でエンターテインメント業を長く続け、その後に札幌市に住んでいました。栗山町を訪れた際に自然豊かな「ハサンベツ里山地区」の存在を知りこの地に魅力を感じていたところ、町で協力隊員の募集があったため応募し隊員となりました。

協力隊では、「ハサンベツ活動推進員」としてハサンベツ里山づくりへの企画・参加を通じて、人と自然が共生するまちづくりの推進と交流人口の拡大に取り組むことを目標に、ハサンベツ里山の保全活動や農泊の体験メニューの指導等を行っています。将来的には、これら保全活動がボランティアでは長続きしないため、自立できる仕組みを構築し、引き続きこの地で活動に従事したいです。

協力隊の活動事例

「広尾町」らしさを追求した体験型観光の確立へ

北海道広尾町は北海道十勝地方の最南端に位置し、第一次産業の漁業、農業、林業が主要産業になっています。豊かな自然に恵まれ、第一次産業の体験を通したアクティビティの素材が豊富にあるものの、それらは観光資源として十分に磨ききれていない状況下にありました。

令和4年度より広尾町水産商工観光課所属での地域おこし協力隊を採用し、農泊事業に取り組んでいる「ピロロツーリズム推進協議会」の一員として体験型観光の企画運営に従事しています。これまでに放牧見学や昆布干し体験、草花鑑賞ツアー、野鳥観察会、夜間＆早朝フォトツアー、スノーサイクリング、フットパス事業といった各種コンテンツづくりを実現させました。

北海道広尾町　地域おこし協力隊　磯野　巧さん（活動期間：令和4年度～）

神奈川県出身。研究職@独立行政法人＆高等教育機関をバックグラウンドにもち、学術的な側面から農山村の地域創生業務に従事してきました。その過程で観光地デザインや地域人材育成をはじめとする「専門性を活かした伴走型支援業務」に強いやりがいを感じ、将来的にそれらを中核事業とするまちづくり会社を設立したいと考えるようになりました。

そのためには地域に入り込み、一プレイヤーとしての経験を積み重ねる必要があると判断し、現場力の強化と実務スキルを磨くべく地域おこし協力隊の道を選びました。一次産業を題材とする体験型観光の推進という職歴が活かせそうなミッションで、さらには同世代が集いチャレンジングなことに取り組むピロロツーリズム推進協議会をもつ広尾町に大きな魅力を感じました。

協力隊としては間もなく任期を迎えますが、引き続きピロロツーリズム推進協議会の一員として農泊事業の推進にも携わる予定です。

ツアーの企画だけにとどまらず、ゲストハウスの開業や就業促進サイトの運営など、町を元気にする取組

北海道浦幌町には絶滅危惧種や天然記念物の鳥類が観察できるスポットや炭鉱跡地など、自然や歴史にまつわる観光資源が豊富にある他、町の花であるハマナスが栽培され、それを原料とした加工品の開発なども行われています。

浦幌町では、平成30年に農泊の推進組織「浦幌農泊観光促進協議会」を立ち上げるにあたり、事務局を担う人材を地域おこし協力隊として募集しました。

北海道浦幌町　元地域おこし協力隊　小松 輝さん（活動期間：平成29年度～平成31年度）

大学では中山間の地域づくりについて学んでいました。浦幌町でのインターンシップを通して実際の地域づくりに触れたことをきっかけに、浦幌町での地域おこし協力隊に応募しました。協力隊の任期中は、浦幌農泊観光促進協議会で農泊事業の実務を担い、地域の自然や文化を活かしたツアーの企画などに際し、行政や地域の方との調整などを行いました。任期が終わるにあたり、旅行業の資格を取得していたため、協議会での仕事の経験や人脈を活かし、新たに会社を立ち上げました。

現在、旅行に係る業務は一部のツアーの受入以外は行っていませんが、ゲストハウスの運営の他、特産品などの販売やカフェなども併設したお店をオープンしました。この他、町からの委託で就業促進のポータルサイトも運営しています。これからも、浦幌町でいろいろな人が活躍し、地域が元気になるよう、活動をしていきたいと考えています。

協力隊の活動事例

100種類以上の体験プログラム開催＆個別伴走型サポートでの民泊開業で滞在型の旅づくり！

宮城県栗原市では、地域資源を活用した滞在型の旅の創出を目的として、地域おこし協力隊を採用しています。「神々の絨毯」と呼ばれる紅葉風景が楽しめる栗駒山や、10万羽を超える渡り鳥が飛来する伊豆沼・内沼があります。

隊員は栗原市農泊推進協議会に所属し、多様な分野の参画団体と連携しながら、食やものづくり等の体験プログラムやツアーの創出、宿泊・飲食事業者の創業支援、食のコンテンツ開発、サイクルツーリズム、アドベンチャーツーリズムなどに取り組んでいます。

宮城県栗原市　元地域おこし協力隊　狩野　夏穂さん（活動期間：令和元年度～4年度）

岩手県での学生生活を経て、出身地の栗原市で、大学での研究テーマとして学んできた農泊推進に関わりたいと思い、地域おこし協力隊としてUターンしました。私のミッションは、体験コンテンツの企画・開発と、宿泊・飲食事業者の人材育成・支援でした。コロナ禍でも年間50回以上の体験プログラムを開催し、サイクリングやハイキング等の屋外でのプログラム開発に力を入れました。また、個別伴走型の創業支援のシステムを構築し、任期中に5軒の民泊施設が開業しました！

隊員としての任期を終えたのち、栗原市農泊推進協議会の中核法人（一社）くりはらツーリズムネットワークへ就職し、引き続き事務局スタッフとして、宿泊・飲食の創業支援や大学と連携した古民家改修プロジェクトなどの農泊推進の活動に携わっています。

本場のきりたんぽづくりや農作業体験を主とした、農家民宿と教育旅行の誘致

東京・渋谷の忠犬ハチ公像で有名な秋田犬のハチの生まれ故郷でもある秋田県大館市は、きりたんぽ鍋、比内地鶏、秋田杉の曲げわっぱづくりなどの多くの観光資源を有する町です。

これら多くの素材を生かし、交流人口を増加させることを目的に大館市まるごと体験推進協議会を通して農家民宿の受け入れサポートや教育旅行の誘致に向けたPR活動に取り組んでおり、市の地域おこし協力隊員にも協議会の業務に従事していただいています。

秋田県大館市　地域おこし協力隊　工藤　里美さん（活動期間：令和5年度～）

両親の故郷である秋田県大館市を活気あふれる場所に戻したいという思いから、地域おこし協力隊になることを希望して東京から移住を決めました。

現在は、協力隊員として、農家民宿オーナーと外国人観光客間の予約受付、修学旅行誘致活動、修学旅行体験学習現場でのサポートや、大館市で開催されるイベントの運営などを行っています。大館市役所観光課の方々からご指導を頂きながら大館市を勉強中です。

長年にわたり旅行業に携わっておりましたので、観光を通して国内・海外へ多くの人々に大館市の魅力を広げる活動で交流人口増加へ繋げたいと思います。

協力隊の活動事例

遊び×地方創生、インバウンドグリーンツーリズムで地域を元気に

秋田県仙北市は、東北有数の観光地であり、国、県が実施するインバウンド政策への対応や地域住民が気付かない観光資源の活用を進めるため、地域おこし協力隊員に地域協議会の運営協力及びインバウンドグリーンツーリズムの推進を目的として活動してもらっています。

一般社団法人仙北市農山村体験推進協議会を通して市内農泊関係者との関係構築を行い、オンラインでも行われている英語圏との旅行商談への対応やインバウンド対応を想定した企画を実施し、退任後も市内で活躍の場を広げています。

秋田県仙北市　元地域おこし協力隊　東風平　蒔人さん
（活動期間：令和元年度～令和5年度）

私は大学進学を機に沖縄から秋田に移り住み、四季豊かな自然とそれに歩調を合わせる人の暮らし方に惹かれ仙北市の地域おこし協力隊に応募しました。任期の始めはコロナ前ということもあり、上り調子だったインバウンド観光とグリーンツーリズムの振興に務めましたが、間もなくコロナ禍で一時停止せざるを得ませんでした。

その間に浮き彫りになったのが、グリーンツーリズムを牽引している農家民宿の経営者の高齢化、次の観光産業の担い手不足という課題でした。コロナ禍前のインバウンド客の推移を見ても、日本の地方部は観光のポテンシャルが高いと確信し、任期中に築140年の古民家宿を事業承継し、退任後は法人設立をして宿泊事業とアクティビティ事業に従事しています。今後も秋田の魅力を「遊び」を通じて世界に届けたいです！

秋田県仙北市　地域おこし協力隊　佐藤　成真さん（活動期間：令和4年度～）

漠然と「田舎暮らしがしたい」と思い、地域情報を集めていたところ、偶然にも仙北市の地域おこし協力隊の募集を知り、直感で応募しました。主な業務内容は、仙北市内の農家民宿に宿泊を希望しているインバウンド客への持ち前の英語力を活かした対応や、事務サポートです。

協力隊になる前は動画編集の仕事をしており、退任後も地域に根付いて映像制作業を続けようと思っていたのですが、農家民宿の事業者さんたちと深く関わっているうちに自分も農家民宿を始めたくなりました。そのため、退任後は映像の制作と民宿経営の二刀流で生計を立てようと思っています。

協力隊の活動事例

ダリア染め文化を広める活動でまちおこし

福島県塙町には、花のテーマパーク「湯遊ランドはなわダリア園」という観光名所があります。特に8月から10月頃まで、町内各地でダリアが花を咲かせ訪れる観光客を歓迎するなど「まちの花ダリア」が重要な観光資源となっています。塙町のシンボルであるダリアの特産品として「ダリア染め」の制作・販売に塙町観光協会に所属する地域おこし協力隊が取り組んでいます。

塙町の実施するモニターツアーでは都心部からの参加者に「ダリア染め体験教室」を開催したり、町内外のイベントに出展するなどし、塙町のダリア文化を広め、その魅力を発信しています。

福島県塙町　地域おこし協力隊　土井　眞穂梨さん（活動期間：令和3年度～）

「ものづくり」に関心があったので、同年からダリア染め製作の活動を開始しました。ダリア染めの魅力は、染料の品種のほか、時期や季節・気候によって、製品が「完全1点モノ」として出来上がることです。「10年に1度！」の製品が毎回出来上がるみたいな感じ（笑）で楽しいです。材料は、本来廃棄物となるはずだったダリアを使用しています。「ダリアのまち」塙町ならではですね。

最近は、塙町の陣野菓子店さんの依頼で「のれん」製作に取り組んでいます。地域の皆さんに頼ってもらえたことがすごく嬉しいです。

農泊や民泊で地域の活性化をめざして協力隊員が活躍

茨城県神栖市では、地域おこし協力隊員に神栖農泊協議会での業務に従事していただいています。神栖農泊協議会では、地元のお寺長照寺住職の宿坊宿泊に農業体験を組み合わせたり、農業とスポーツ（サイクリング、サッカー、野球など）を取り入れた宿泊プランの造成・販売を進めています。

その中で、地域おこし協力隊員は、「農泊Xサイクリングプラン」を考え、神栖市観光PR動画の製作などを行っています。農業体験はもちろん、じゃがいもの畑で行う新しいイベント“砂山作り大会”や地元の農産加工品をキッチンカーで販売するなど、神栖市波崎地域における農泊ビジネスの確立に取り組んでいます。

他にも、近郊の地域おこし協力隊や地域活動に熱心で興味がある人に集まって頂き、“神栖市における観光研修会”を年に2回開催しています。

茨城県神栖市　地域おこし協力隊　竹中　郁人さん（活動期間：令和4年度～）

1996年鳥取県鳥取市生まれ。移住前は、大阪府門真市でパーソナルサッカースクールのコーチを務めながら、動画撮影・編集などに取り組んでいました。

趣味は旅・料理・レザークラフト。特技は動画撮影・編集、サッカーで、観光やスポーツに関わる仕事がしたいという思いがありました。

また、お祭りなどのイベントやもちろん農業などの神栖市の市民には見えない大きなポテンシャルに関心があり応募を決めました。

現在では、SNSの運用や地域のヒト・モノ・コトの取材活動など情報発信しております。

これからも、神栖市での起業または就職に向けた自主活動を目指して観光振興に関わる地域活動に取り組んでいきます。移住者から見た神栖市の魅力を日々発信していきます。

協力隊の活動事例

空き家と耕作放棄地対策で観光・移住定住促進！

北総里山文化推進協議会は、発酵の里こうざきの古民家サロンHOUSEを中心に、農業体験、文化体験、発酵体験、瞑想体験など心と身体の安らぎを求めて農泊の取組を推進しています。特に地域の古民家、空き家や耕作放棄地の活用を模索しながら北総エリアで活動を展開しています。地域おこし協力隊は香取市をベースに活動しており、椿HOUSEや塙HOUSEに宿泊したお客様に着物体験や茶道体験のサポートをしながら佐原の街並みを案内したり、移住希望者に空き家の紹介をしたりと地域の方々と連携しながら地元の情報発信をおこなっています。

千葉県香取市　地域おこし協力隊　顔冬子さん（中国吉林省出身・活動期間：令和4年度～）

国際医療通訳（中国語）で活動していましたが、コロナ禍により東京の仕事がなくなり、神崎町の古民家サロン椿HOUSEでのボランティア活動がきっかけで、この北総エリアが気に入りました。香取市の地域おこし協力隊に採用され、最初は移住促進担当として移住希望者へ農業体験や文化体験をご紹介して小江戸佐原を中心に北総エリアのPRをしていました。特に椿HOUSEさんは農泊施設としても魅力がありさまざまなご縁をいただきました。

現在は観光課と連携してインバウンドも含めて香取市や北総エリアの情報発信をしています。今後は空き家や耕作放棄地などの活用を観光にも取り入れて、多くの方々に来訪いただき、究極的には移住定住に繋がるように活動しています。地方において人口が増えることはさまざまなメリットがあるので、企業誘致も含めて人口増加施策を常に意識して活動して参ります。

狩猟体験からジビエ肉販売まで協力隊員も一緒に盛り上げる！

静岡県松崎町の農泊地域協議会である「松崎町・害獣×外住協議会」では、地域で問題となっている獣害を狩猟体験やジビエ肉販売につなげて地域の観光資源として活かすことで地域活性化を図っています。この中で、松崎町の地域おこし協力隊員が、狩猟体験ツアーのガイドや捕獲した鹿猪の解体、精肉販売などを担っており、山奥の小杉原地区における農泊ビジネスの確立に取り組んでいます。

静岡県松崎町　地域おこし協力隊　石川　たごさくさん（活動期間：令和4年度～）

狩猟に興味があり松崎町で鹿・猪による被害が増加していることを知り、害獣問題の解決とジビエ肉の流通で地域経済の発展に繋がるのではないかと思い応募しました。

現在は、農泊に取り組む「松崎町・害獣×外住協議会」と連携し狩猟体験やジビエ肉BBQのツアー、わなオーナー制度のコンテンツを確立し、都内の業務提携した企業とイベントやSNSでの発信を強化し認知度を高めるとともにジビエ肉の商品開発と販路拡大を目指し活動しています。

協力隊の活動事例

地域の未発掘の資源を観光化する仕掛けづくり

新潟県長岡市の中山間地域にある山古志では、山古志ならではの観光資源の発掘や価値を高めるために、山古志の観光を担う山古志農泊推進協議会と長岡市の地域おこし協力隊が一体となり取り組んでいます。

人口750人まで減少、高齢化率56％以上の限界集落という課題をかかえながら、関係人口を取り入れるための地域の魅力を発信する仕掛けづくりや地域の未発掘の資源を利用した体験コンテンツ造成、観光保全のためのボランティアツアーなど、様々な活動に取り組んでいます。

新潟県長岡市山古志　地域おこし協力隊　中澤　泉さん（活動期間：令和3年度～）

海外マレーシアで会社員生活を長く続けておりましたが、本帰国をきっかけに地方創生に関わる仕事に興味を持ち、地域の観光活性化を目的とした地域おこし協力隊に応募しました。実際、山古志に移住し、地域の方々と多くの関わりを持つことで、今までにはない多くの気づきを得ています。

現在は、インバウンドを含めた観光客を誘致するために、山古志農泊推進協議会のスタッフとして、地域の伝統文化の発信、観光資源の発掘に従事しております。より多くの山古志ファンを創り上げるために、よそ者目線での地域の宝の発見や山に暮らす人々の人間力など、山古志ならではの地域の魅力を発信し、地域と地域外を結ぶ役割を担っていきたいです。

協力隊で培った企画力で旅行会社を設立し農泊を推進

新潟県十日市町では集落活動の担い手不足解消の為、地域おこし協力隊を採用しています。市役所などの行政では手の届きにくい細やかな集落支援を仕事としており、集落によって多岐にわたります。

集落の中でのお祭りなどのイベントサポートや農林関係の補助金申請書類作成、空き家の調査と利活用等、その地域に住むからこそ見える課題に対して集落住民と協働して解決に臨みます。最近では里山の資源（棚田や古道、古民家等）を用いた関係人口増加に向けての取組が強く期待されています。

新潟県十日町市　元地域おこし協力隊　井比　晃さん
（活動期間：平成27年度～平成29年度）

豪雪地帯の新潟県十日町市の方々が力強く生きている姿に憧れて移住をしました。イベントでの野菜販売や婚活事業、林業から始める空き家のリノベーション事業、観光PR等の活動を行ってきました。

活動の中で高齢化が進む集落の持続性に危機感を持ち、地域の暮らしにフォーカスしたコンテンツを開発・販売し、地域住民が経済的に恩恵を受けられる取組として旅行会社を設立。その事業の中で水沢棚田協議会（Mizusawa Rice Terrace Conference）の事務局長としても就任。地域住民と協働しながら体験コンテンツ等を造成し、地域の古民家を宿泊施設としてリノベーションしながら 宿泊客と地域住民が交流できる拠点施設を整備し管理・運営をしています。

協力隊の活動事例

氷見をもっと知ってもらうために深堀

富山県氷見市では、地域観光プランナーや環境にやさしい農業支援など地域課題の解決に取り組みつつ、起業実践を目指す人材を確保するため地域おこし協力隊を受け入れています。

氷見市宿泊体験推進協議会では、漁業や水産加工業などを中心に、山間部への訪問を含んだ体験・滞在型観光メニューの開発及びSNS等を活用した情報発信に取り組んでいます。氷見市の観光は海側がメインになってしまいがちですが、山間部や歴史などにもスポットをあて、氷見に訪れる観光客が増えるように小さなトピックでも拾い上げ、観光素材の一部となるようアウトプットに尽力しています。

富山県氷見市　地域おこし協力隊　田中　紀行（活動期間：令和4年度～）

自分にとっての豊かさとは何かを考え始め、神奈川に住み東京で働く生活から全く縁もゆかりもない富山県氷見市に移住することを決意しました。祖母の家は山形県にあり、小さい頃からよく遊びに行っていたのですが、大人になるにつれ過疎や高齢化など地方特有の問題を意識し始め、地方創生への興味が沸き氷見市の地域おこし協力隊に応募しました。

現在は氷見市の観光を推進するべく、地域観光プランナーとして地域住民との交流を図りながら様々な角度からの情報発信や観光案内に関する情報媒体の作成、マーケティングや広報活動に取り組んでいます。

地域の資源を活用したまちづくり

福井県若狭町の地域おこし協力隊は、地域の産業や観光の新たな担い手として、農家、観光事業者、まちづくり団体等で活躍しています。

農泊に取り組む「伝統漁法による三方湖の活性化推進協議会」は、漁業資源を始めとする地場産物を使った料理やSDGsを意識した環境保全型の体験プログラムの提供などを行っており、阪野さんは隊員卒業後に農泊協議会の中核法人である「一般社団法人Switchi Switchi」の代表理事として活動しています。

福井県若狭町　元地域おこし協力隊　阪野　真人（活動期間：平成28年度～平成30年度）

愛知県出身で高校卒業後、野外活動等を学ぶ専門学校を経て10年間北海道でガイドをしてきましたが、今後の子育てなどを考える中で妻の実家がある若狭町へ移住をしました。

若狭町では人と自然の良い関係を創り続けることが、結果的に地域での暮らしの豊かさに繋がると考え活動をしています。三方五湖では、400年以上続く伝統的な漁法でウナギ、コイ、フナなどが水揚げされており、水産資源をとり過ぎない漁法として改めて注目されています。

一方で、漁業者の減少や高齢化によって伝統漁法の存続が不安視されており、本協議会では、伝統漁法の現場を見る体験ツアーや、コイやフナの消費拡大を目的とした商品開発やイベントを実施しています。地方の人口減少が進む中で里山、集落や地域、産業の維持が難しくなってきており、地域に暮らす私たちが主体的に地域の未来を選んでいくことができればと思います。